

【ワクワクプロジェクト】R1. 8. 23《兵庫支部》 講演会

講師：瀧川 光治 先生（大阪総合保育大学 教授）

演題：「資質・能力」「10の姿」を育む教師の役割

—子ども理解の視点として活用する力を—

三田市において全幼研兵庫支部の第2回目の研修会が開催されました。245名の会員が集まり、瀧川先生のお話から学び合いました。



日本が提唱する情報社会の未来である『Society 5.0』時代で求められるのは創造的な思考力で、自ら課題を発見し、協働して解決する力である、子供たちが“気付く”“考える”“工夫する”“試行錯誤する”経験ができるよう、教師は子供の

感じたことや考えたことを生かしながら子供の気付きや学びを深めていくことが大切であるということが分かりました。幼児の姿から遊びのプロセスを捉えて10の姿に当てはめ、何が育っているかを捉えると、どこに課題があるのかや次の援助の手立てが分かる。10の姿は、一人一人の姿から捉えていく必要があるが、日々細やかに記録を取るとは難しいので、写真に収め、そこからドキュメンテーション的に振り替えることもできるといことも学びました。

ワークショップでは、“紙コプター”を作りました。最初は提示された方法で作る、2回目は羽の大きさや絵の長さを変化させて作る、3回目は周囲の人の様子も見ながら自由な発想で考え工夫して作る、というプロセスを参加者自身が経験し、創造的な思考がある時には、人は主体的に取り組もうとするということも体験しました。子供の気付きや試行錯誤して繰り返している姿、喜んで主体的に取り組んでいる姿に注目し、教師は子供の主体性をいかに引き出すことが大切かということに改めて感じました。また、子供の気付きを捉え、試したり、工夫したりすることができるような環境構成をすること、試して気付く、やってみて気付くことが生まれるような保育の展開をすること、様々な試行錯誤ができる可変性のある保育を意識することを今後も継続して取り組んでいきたいと思いました。

瀧川先生、貴重な学び合いの機会をありがとうございました。